



# 高校生模擬議会

将来を担う高校生が、町の最高意思決定機関である「町議会」を体験し、高校生目線で、町への提言を行う「蘭越高校生模擬議会」が12月13日、役場議場で開会されました。

高校生が模擬議員（議長1人、副議長1人、議員14人、書記1人）となり、町側も、町長以下、特別職、各課局長が出席し、町議会定例会同様に、開会から一般質問までの進行そのままに行い、町長に自分たちの意見や要望を述べる機会が与えられることから、高校生には貴重な体験となつていきます。町側も、高校生たちの質問に対し、各担当課が町議会における一般質問と同様に検討を重ねた答弁が用意されました。

模擬議会は、議長の開会宣言後、5人の模擬議員が一般質問を行い、金町長が答弁を行いました。（質問と回答の概要を掲載しましたのでご覧ください）模擬議会を終えた生徒へ金町長から「まもなく責任ある社会人となられる高校生の皆さん方に、民主主義の基本的原理である議会制度を体験して、社会のさまざまな問題について考えていただき、大人が気づかない、あるいは気づかなくなつてし

まったような問題や要望を、柔軟な感性で町に提案していただくため、蘭越高校生模擬議会を庁舎議場において開催させていただきますました。

それぞれの質問や提案から、蘭越町を魅力ある素晴らしい町にしようという熱意と人への思いやる優しさがひしひしと感じられ、心から感激をしているところでございます。

これからも、ふるさと「蘭越」への思いと、ここに住む人々の暮らしを見つめて、より良いまちづくりに向けた提言をいただければ幸いと心からお願ひ申し上げます。と講評を述べました。

また、生徒を代表して、小泉里緒さんがお礼の言葉を述べました。



安井 祐太  
模擬議員

## 蘭越町の一人暮らし用住宅について

車が無くても買い物しやすい蘭越町内に住宅を設け、必要最低限の家具付きといった配慮をすれば、新卒者のような若い人たちも興味をもってくれる

と思います。

## 回答

本町においても人口減少に歯止めがかからず他の市町村同様、この対策に取り組んでいるところですよ。

町内に賃貸共同住宅を1棟当たり4戸以上新築する者に対して、建設費の一部を最大1千2百万円補助する「蘭越町民間賃貸共同住宅建設促進事業」を実施しており、民間が建設するマンションやアパートの共同住宅への支援や町が建設する公営住宅の整備など、限られた財源の中で検討してまいります。

なお、移住お試し体験事業や空き家改修事業など各種の支援事業についても広報紙やホームページ等及び今年度から広報広聴係でフェイスブックも立ち上げており、活用について協議しながらピリアルに努めてまいります。

## 蘭越町の福祉施設について



東條 くるみ  
模擬議員

目名町内は、過疎化が進行

し、保育所も閉鎖されました。そこで、目名デイサービスに保育所を付属させることにより、毎日蘭越町まで送迎する保護者の負担を減らせるのではないかと考えています。

### 回答

現在、蘭越保育所に通う児童78名のうち、目名及び港方面からは6名で、そのうち母親が蘭越又は昆布へ通勤している児童が2名となっている状況にあります。

現在の本町の状況から施設の複合化を図ろうとすれば、それは、今ある蘭越保育所は存続して、目名に所在する高齢者福祉施設に保育機能を新設することになります。そうしますと、相当なコストが必要となることから、「費用対効果」、つまり児童1人当たりにかかる費用は割高となり、コスト面での効果が期待できないこととなります。幼老複合施設の組合せに限らず、施設型の行政サービスにおいて広く応用できるものと考えますので、とても重要な示唆をいただいたことに感謝を申し上げます、答弁いたします。

### 蘭越町をPRするための釣り大会の開催について



鈴木 綾真  
模擬議員

尻別川の水の綺麗さは北海道内でもトップクラスに値し、多くの人達にピーアールする価値が十分にあると思います。そこで、より多くの人達に蘭越町内を流れる尻別川を知ってもらいたいと思い、私たちは釣り大会を開催することを提案します。

### 回答

蘭越町を流れる一級河川尻別川は、鈴木議員からもお話しいただいたとおり、過去に17回清流日本一に選定され、流域でとれる農産物は、お米をはじめとして、大変高い評価を受けております。

昭和62年から平成6年まで、蘭越町内の尻別川を会場に「鮎釣り大会」が行われており、当時は、尻別川に漁業協同組合もあり、そこが主催者となり、大手の釣り具メーカーなどの協力を受けるなどして、全国大会の決勝大会が行われたこともあり

ました。

近年、「アクティビティ」として気軽に「釣り」を楽しみたいという需要も多いと聞いており、カヌーなどの河川で楽しむ観光産業のひとつとして、蘭越町でも機会が創出されることを願っております。

そうした中で、釣り大会という形にとられず、愛好家中で気運が高まり、釣りを通じて地域の活性化につながるものについては、自然や資源を守ることを前提に検討したい。

### 蘭越町の自然災害への備えについて



小沢 太地  
模擬議員

大規模な停電が発生した場合、役場、らぶちゃんホール、一灯園といった主要施設及び大勢の方が生活をしている場所に発電機を設置しておけば、充電サービスや人工呼吸器といった、生活する上でどうしても電気を必要とする方々の助けになると思っています。

### 回答

今回の長時間停電で、私

ちの日常生活や普段の仕事が、電気に深く依存しており、停電への備えがいかに大切であるかを改めて認識する機会となりました。

先日開催しました、港地区の避難訓練においては、防災機器の展示を行いました。携帯電話が一度に20台充電できるバッテリーに住民の方も興味を示されておりましたので、今後、導入を検討して参りたいと考えております。

また、冬場の災害・停電については、暖房対策が重要になりますので、今年9月の町議会にポータブルストーブの補正予算を提出し、議決いただきましたので15台を購入し、備蓄しました。避難所や公共施設においては、発電機の常備はもちろんですが、例えば公用車にインバーターを設置し、電源がとれるようにして配備することも考えております。

さらに、一灯園から発電機の支援要請があれば町の備蓄もしくは開発等からの借用で要請に応えたいと思っております。



### スクールバスの運行について



藤原 彩花  
模擬議員

ここ数年、黒松内町内から蘭越高校へ進学する生徒は減少しているため、黒松内町方面へ下校便もスクールバスを1便だけでも運行してもらえれば、JRでの通学を不便と考えている中学生にも蘭越高校をよりアピールできるようになるはずですが。

### 回答

中・高校生のスクールバス下校便は、1便が15時50分、2便が18時17時30分ですが、黒松内までの運行を考えたとき、1便・2便ともに運行することは、既存のバス台数及び運転手の人数では大変厳しい状況にあります。現状のJR定期購入費の助成と登校便スクールバスの運行を併用することが最善と考えます。

今後JRダイヤの改正等が行われ、運行列車が減便し通学が困難な状況になった場合には、バスの増便や運転手の確保も含めて検討してまいります。